

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2010年 SUPERGTシリーズ第3戦

2010.5.2

FUJI GT 400km RACE



横浜ゴム(株)は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続することになった。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは年間2勝以上、そして初のチャンピオンである。

優勝を飾った開幕戦とは対照的に、HIS ADVAN KONDO GT-Rは、第2戦で大いに苦戦を強いられることとなった。40kgのウエイトハンデに対し、走りでもカバーしようとした安田がノックダウン予選のS1でクラッシュ。12番手から決勝にはオリベイラがスターティングドライバーとして挑み、中盤には入賞圏内にまで順位を上げた。そして、安田へのドライバー交代と合わせ、タイヤ4本を交換。しかし、思うようにペースが上がらなかったばかりか、最終ラップにはガス欠症状が出てしまったため12位に留まり、ポイントを重ねることはできなかった。

2戦連続で悔しい思いはしたくない。それはチームのみならず、ADVANスタッフも含めた総意である。そこで第3戦の舞台、富士スピードウェイには前半ハイスピード、後半テクニカルというコースレイアウトに対応すべく、タイヤの構造は前回と同じであるものの、よりトラクションを稼げるよう配慮。ストレートで稼ぐべくレスダウンフォースのセッティングになることから、セクター3と最終コーナーの脱出速度を高めるためだ。また、この時期の富士スピードウェイは寒暖の差が激しいため、ドライ用タイヤのコンパウンドは3種類を用意し、対応幅を広げている。

また、今回のレースは400kmと普段のレースより長く、なおかつ途中2回のピットストップが義務づけられている。予選を重視するなら、第1スティントをショートに。逆に第1スティントをロングにすれば、その後の戦略にも幅を持たせることができる。このあたりの判断は、土曜日の練習走行でポテンシャルを確認した上で決定される。複雑な要素が絡み合うだけに、今回は予選の結果がそのまま決勝に反映されることは少ないのではないだろうか。

GT300クラスでは、横溝直輝/阿部翼組のアップスタートMOLA Zが優勝。開幕戦の2位とも合わせ、これでランキングのトップに浮上した。2位にはK-ONE・アップル・紫電が、3位にはHASEMI SPORT TOMICA Zがつけて、ADVANユーザーが2戦連続で表彰台を独占。しかしながら、チャンピオン有力候補とされる、ウェッズスポーツIS350とM7 MUTIARA MOTORS両宮SGC7が、それぞれアクシデントによってノーポイントに終わってしまった。



しかし、シリーズはまだまだ序盤戦。巻き返しのチャンスは十分にある。そして、アップスタートMOLA Zの快進撃はどこまで続くのか、大いに興味は尽きぬところ。そこでADVANユーザーを全力でバックアップすべく、今回のタイヤはより耐久性を重視。これは前述のとおり2ピットが義務づけられているので、無交換作戦を含めた戦略のバリエーションを増やせるよう配慮したためだ。富士ではエンジン

パフォーマンスに優れるFIA-GT車両が有利ながら、JAF-GT車両がセクター3を筆頭に、どれだけコーナーで稼いでくるか。普段以上にタイヤ絡みの要素が勝敗の鍵を握りそうだ。

なお、今回からADVANの25番が復活。土屋ファミリーがZENT Porsche RSRを投入することとなった。FIA-GT車両であり、しかもポルシェの09年モデルとあって、いきなりの活躍も期待できそう。さらに新たなスポンサーを得て、装い一新のエヴァンゲリオンRT初号機aprカローラも、話題だけでなく走りの方でも注目を集めるに違いない。

2010年 SUPERGTシリーズ第3戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類 (S, M, MH)	2種類 (MS, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	330/710R18, 280/710R18, 280/680R18, 280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	330/710R18, 280/710R18, 280/680R18, 280/650R18



GT300クラスのニューカマー、アストンマーチン・ヴァンテージ ドライバーが語る、その特徴と可能性



66 triple a Vantage GT2

GT300クラスの魅力のひとつとして挙げられるのが、車種のバラエティに富むこと。それぞれ個性的で、量産車からスーパーカー、そしてワンオフの車両まで同じ土俵に立つという、半ばカオス状態のレースは、世界中探せばあるかもしれないが、ここまでのステータスはない。

そのGT300クラスに、また新たな車両が加わった。新チーム「A Speed」が走らせるアストンマーチン・ヴァンテージは、4475ccのV8エンジンをフロントに積む、いわゆるFR。また、昨年までGT500クラスを戦っていた、DBR9とルックスは酷似するが、向こうはV12エンジンを搭載し、実際にはサイズもひとまわり小さい。

そして、もうひとつの特徴が、FIA-GT仕様の車両であること。自動車メーカーが「レーシングカー」として市販した車両に、改造が限りなく許されないという、JAF-GT車両に対するハンデがある反面、大きなリストラクターが装着できるというマーヅンもある。

だが、それだけではない特徴を、ドライバーの松田秀士、吉本大樹のふたりに語ってもらった。ここまでの2戦は満足がいくどころか、むしろ不運な展開が続いているが、ふたりの言葉から、高い可能性を秘めていることを理解してもらえるはずだ。

松田「今までいろんなGTカーに乗ってきたけど、いちばんボディがしっかりしていて、サスペンションを動かして走るクルマ。最近のGTには珍しいタイプではあるね」

吉本「すごくラグジュアリーなクルマ。僕が今まで乗ってきたGTは、ヴィーマックと紫電だけなんで、性格的には正反対。でも、想像していた以上にコーナリングがよいんですよ」

松田「その分、ストレートがね……。もうちょっと欲しいんだけど、欲張っても仕方ないし、すごく遅いわげじゃないから、そのへんは上手に使っていききたいね。でも、バランスはすごくいいし、欠点みたいなのは見当たらないんだ」

吉本「実際、乗りやすいですよ。快適でもあるし。エアコンも着いていますから」

松田「あれは素晴らしい！窓が曇りにくいんだよね。除湿効果がすごい。暑さっていうのはクールスーツが受け持つ部分で、寒い時にはコクピットの中と外とで温度差があるからね。ともあれ、ドライバーに対して優しいクルマで、まだ引き出し切れていないけど、戦闘力が高いクルマだっていうのは分かるんでね。だから、いずれ表彰台には立てると思う。それが果たせたら優勝、チャンピオンって目標になるのは間違いないですね」

吉本「いいパートナーと組ませてもらって、いい体制といいクルマを用意してもらったんですから、1年目だから勉強とか、そういうのではないし、最初から勝負しいきますよ！」



松田秀士

吉本大樹

まつだ ひでし (1954年12月22日生まれ)
レースデビューは83年のシビックレース。デビュー2年でF3に進み、3戦目で初優勝。翌年にはF2にステップアップを果たす。その後、さまざまなレースを経て、94年にインディ500初出場。4回出場し、96年には8位に。GTには94年より出場。モータージャーナリストでもあり、またピートたけし氏は義兄に当たる。

よしもと ひろき (1980年9月2日生まれ)
レースデビューは99年のFJ1600。翌年にはフォーミュラトヨタシリーズ参戦を果たす。その後、様々なカテゴリーで経験を積み、05年にはGP2シリーズに参戦し2位。GTには09年第2戦より出場し、3度の表彰台を獲得した。今シーズンからはA Speedよりアストンマーチン・ヴァンテージをドライブし更なるステップアップを目指す。

ふたりのドライバーにとって、お互いの印象は？

松田「速いドライバーでね、イケイケだった僕の若い頃の雰囲気思い出させてくれる。行かないやいけない時にガチッと行ってくれるんですよ、それを天性の感覚で。もちろんコントロールもできるんですけどね。それとクルマのことをよく分かっているし、感じ方が僕と一緒にあって、やりやすいというのは非常にありますね。基本的に僕の使命はクルマを作ること、それを遂行できて、吉本が速く走らせてくれたら、これほど嬉しいことはないんでね！」

吉本「以前、オーストラリアの、インディカーも走っていたサーファーズパラダイスってところに住んでいたんです。だから、インディカーにも注目していたら、松田さんがインディ500にいきなり出てきて、いきなり上位走っていて。その頃、オーストラリアでは日本のレース情報なんて伝わって来なかったんで、すごいなって思っていました。当時から憧れていた松田さんと、こうやって組めることがすごく嬉しいし、ありがたいし。今までものすごい経験をしているんで、知識や情報もあるから、すべての判断が的確で。すごく勉強になります」

